

教育目標		やさしく かしく すこやかに——命を大切に・人を大切に・物を大切に——						
重点目標		(1) 基本的人権が尊重される教育の推進 (2) 一人ひとりのニーズを把握し、適切な教育支援を行う「特別支援教育」の推進 (3) わかる授業の創造による、生きてはたらく学力の育成 (4) 心ふれあう仲間づくり (5) 基本的な生活習慣を身につけさせる (6) 心を育てる美しい環境づくり (7) 命を守る安全教育の推進 (8) 健やかな体づくり						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 ②児童の態様を的確に把握し、個別最適な学習を実施する。 ③家庭と連携し、家庭学習の習慣づけを図る。	・朝学習での反復練習による計算の基礎構築を図る。 ・単元毎のテストで習熟度を把握し、振り返りや次の単元の学習につなげる。 ・授業中や家庭学習で様々な文章を書く機会を設け、自分の考えや思いが伝わる書き方を指導する。 ・1つの授業でグループやペアワークなどを意識的に取り入れ、どの児童も自分の考えなどを一度は話せるようにする。 ・スクールタクトやドリルパークを活用し、児童が自分にあった課題に取り組みめるよう課題を工夫する。 ・児童の実態に応じて、可能な範囲で宿題の量や内容を調整し、家庭学習に自信を持って取り組めるようにする。 ・家庭学習が習慣づき、個々の取り組みを把握し、指導を行う。 ・音読カードに日々の学習時間を書く欄を設け、家庭学習への意識を高める。 ・児童の実態に合わせて宿題の量、内容を調整し、確実に達成する実感を積ませる。	・各単元における計算分野の正答率が90%以上、漢字小テストの正答率が90%以上になる。 ・自分の考えや思いが読み手に伝わる文章を書くことができる。 ・友達と考えを聞き合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・児童アンケート「先生は教え方をいろいろ工夫している」への肯定的な回答が93%以上になる。 ・学年、学級の実態にあった課題を選択、作成する。 ・ドリルパークを活用し、個人の習熟度に応じた課題に取り組むことができる活動、授業内や宿題で取り入れる。 ・児童アンケート「先生は教え方をいろいろ工夫している」への肯定的な回答は97%だった。 ・児童アンケートの「自分から進んで家庭学習や宿題に取り組んでいる」の項目の肯定的な回答は、73%だった。 ・4年生以上になると、自主学習を宿題として出しているが、取り組む内容や頻度には個人差がある。	B	・各単元における習熟度は国語算数ともに90%前後に到達している。 ・夏期休業中に学年単位で学習教室を実施し、基礎の定着を図った。 ・各学年で日記や作文の宿題を出したり、体育や行事のふり返りを書いたりする活動を取り入れた。 ・文章を書くことはできるが、文章構成や主語述語を意識して書く、既習漢字を使うなど、書く時のまきを意識して書くことには、課題が残っている。 ・学校全体で「聞きタイム」を導入したり、少人数グループでの話し合い活動を取り入れた。 ・学年に応じて児童の自主性を高めるような係活動を取り入れることで、自分の役割に責任をもって行動する姿が見られた。 ・計算や都道府県の暗記など繰り返し取り組むことで定着をはかった。 ・ドリルパークを活用し、個人の習熟度に応じた課題に取り組むことができる活動、授業内や宿題で取り入れる。 ・児童アンケート「先生は教え方をいろいろ工夫している」への肯定的な回答は97%だった。 ・児童アンケートの「自分から進んで家庭学習や宿題に取り組んでいる」の項目の肯定的な回答は、73%だった。 ・4年生以上になると、自主学習を宿題として出しているが、取り組む内容や頻度には個人差がある。	・来年度も単元テストや小テストで国語算数の基礎が定着しているかを確認し、必要に応じて個別指導や課題の選択を実施する。 ・引き続き、学年に応じた形で作文や日記・ふり返りを書く活動を取り入れ、書く力を伸ばしていく。その際、書く時のまきを低学年のうちから指導する。 ・「聞く」ことについては各学年で取り組むことができているので、そこから自分の考えを深めるための手立てが必要である。児童の発表を価値づけたり、違う考えをもつ児童同士で話し合う活動を取り入れたりする。 ・朝学習の時間を活用し、学年単位や学校単位で一つの課題を決めて取り組む。 ・個人や習熟度、学習進度に合わせた課題を出すことができるよう、ドリルパークの有効的な活用方法をICT担当と連携し、職員間で共有する。 ・自主学習については、取り組む内容の例を示したり、自主学習への取り組み方を指導したりする必要がある。また、保護者にももっと啓発していく必要がある。	・授業改善について、研究担当を中心に研修等を行っています。小中の授業の見学等をスムーズに行える体制が組めると思います。 ・もう少し音読に力を入れてみてはどうでしょうか？宿題でできていないと感じていないのか？国語以外の教科でも問題を出して読むなどでもいいのではないかと感じます。 ・3月に行われた5年生の授業参観の感想になりますが、まさにこの項目に関することだったと思います。とてもよい課題だったと思います。 ・読書が習慣になるようにしてはいいのではないかと感じます。→中学校のように朝は読書にするなど ・5分以内に読める本などを利用して、感想や要約を書き出すなどのインプット・アウトプットの練習が必要なのではないかと思えます。 ・自主学習について、自然とモチベーションが高まるような形で取り組めるように、できたこと、やれたことに対して褒めるなどできたらと思います。 ・自主学習の取り組みで自分たちの好きな事、やりたいこと、また苦手な事を探求するような学習をしてほしいのではないかと感じます。 ・楽しんで学ぶ教材の導入 ・宿題の出方の工夫(やらされる感を減らすために)
	新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①教育のDX化に取り組み、校務・授業の両面からICTの活用方法を探究する。 ③学校からの連絡や配布物、家庭からの連絡等のDX化を一層促進する。	・ICT機器や各アプリケーションの具体的な効果的な活用についての研修を実施。 ・デジタルドリルを全ての児童が使用できるようにする。 ・中学年以上はハードウェアキーボードでのローマ字入力を使用できるようにする。 ・児童や教職員が使用するハードウェアの環境を常に整える。	・夏季研修を行い、担当の作成するリーフレット等できめ細かな研修を実施。 ・デジタルドリルの活用率を100%にする。 ・文字の入力に困っている児童の割合を10%に減少させる。 ・教職員向けアンケート「ICT機器を、校務と授業の両面から効果的に取り入れている」の肯定的な評価が90%を超えるようにする。	B	・使用するアプリケーションや環境が変わることが多く、研修の数がどうしても多くなってしまうことがあったが、「誰一人取りこぼさない」という研修方針のもと全員と担当が一緒になって取り組める環境が良かった。一方で、眼前の教職員の困っていること(需要)と担当者の進めたい教育(供給)が一致していないことがあった。 ・デジタルドリルの活用については、児童全員がいつでも使える状態を作ることができた。 ・文字の入力において課題のある児童は、タッチペンの導入により減少したが、キーボードの不良により、解決に至っていない児童もみられる。また、ハードウェアキーボードについては、昨年度同様活用率が伸び悩んでいる。 ・教職員向けアンケート「ICT機器を、校務と授業の両面から効果的に取り入れている」の肯定的な評価は95.5%である。しかし、現状の環境の中での評価である。今後も教育活動と校務の両面でICTを効果的に活用できる環境を更新していくことが求められている。	・教職員の困っていることに目を向けた環境の整備と研修の計画を行い、実現可能なICTの活用方法を研修に取り入れる。 ・デジタルドリルの活用については、どのように課題を出すのかや使用場面を教職員の間で共有する研修を設けるなどして活用の促進を図っていく。 ・ハードウェアキーボードの活用は、ローマ字を覚えることとキーボードの位置を覚えることの2点が必要である。定期的に行う活動などを検討していく。 ・日々新しくなる環境に対応するために計画的な予算編成と、使用方法について検討を続ける。	・iPadの故障などは、早めに対処してあげてほしい。iPadの勉強で意欲的に取り組んでほしいと思ってもキーボード故障によってできない。となってしまうため。
	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	①道徳教育の充実 ②いじめの未然防止・早期発見 ③不登校の未然防止を図る。 ②③友だちの考えを認め合う学級づくりに取り組む。	・校内研究と並行し、道徳の授業では児童が価値について考えることをたのしむことができる授業を行う。 ・学年や学団で、道徳授業の検討を行い、質の高い道徳授業を目指す。 ・部会や職員会議、また学級に関わる教員との情報交換を定期的に行い、いじめの未然防止と早期発見に努める。 ・児童アンケート「自分にとって居心地のよいクラスだと思う」への肯定的な回答が90%以上になる。 ・長期欠席者を全体の1%未満及び、いじめを原因とする不登校0にする。 ・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて」	・より多くの児童が、ふり返りで価値について考えを深めたり、自分の生き方について考えたりしている。 ・道徳の授業も他教科と同様、学年で進め方やワークシートなどを検討する。 ・部会と職員会議で気になる児童の事例や変化について情報交換を月1回行う。 ・児童アンケート「自分にとって居心地のよいクラスだと思う」への肯定的な回答が90%以上になる。 ・長期欠席者を全体の1%未満及び、いじめを原因とする不登校0にする。 ・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて」	A	・授業で価値について深めることはできていることが多いが、内容項目によっては、自分事として考えられない授業もあった。 ・学校行事などに関わらず、どの学年も、学団で事前に検討して、道徳の授業を行うことができた。 ・職員間での児童に関する情報交換を行い職員全体で配慮の必要な児童に対する理解を深めることはできた。児童アンケート「自分にとって居心地のよいクラスだと思う」への肯定的な回答が84.5%であった(昨年度87%)。いじめアンケートの報告件数は昨年度の5.5割に削減されている。 ・1月末現在で不登校による30日以上長期欠席児童は全体の1.8%であった。2学期から高学年中心に長期欠席が増える傾向があったが現在は回復傾向で出席数が増えている児童も多い。 ・仲間づくり集いを年3回実施し、互いに認め合える機会を設けた。児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて」	・道徳の価値項目と自分の生活との関わりを意識させながらも、生活の反省会にならない、プラスで自分事に返していける授業展開を探る。 ・教員の授業力向上を目指し、学年で、道徳授業を教材ごとに担当を決め、1つの教材で2度授業できるようにする。 ・例年児童アンケートの居心地のポイントには昨年よりやや下がったがいじめアンケートの記述数や児童間トラブルなどの件数は大幅に下がっている。施策には効果があったと可能性が高い。目標の指標の見直しも検討したい。 ・長期欠席児童の欠席理由は児童間トラブルが原因であるものは少なく、集団生活に適應することの困難さや生活リズムの乱れからの登校意欲の低下などを原因とするものが多い。別室サポートルームの機能拡張や家庭との連携を見直したい。 ・保護者アンケートでも高いポイントを維持できているので仲間づくり集いを含めた認め合える学習活動の実施を今後継続していく。	・不登校生徒の増加は中学校でも課題です。小中連携を強化した対策が必要であると考えます。 ・とてもよくしてくださっていると思います。 ・親の考え方によって対応が変わり難しいかと思えます。様々な選択肢がある中で学校に通うことの意味役割をどう伝えていくのか。 ・他校に比べて手厚いサポートをされているとは思っています。
「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。	・児童の体力、筋力、筋持久力、柔軟性を伸ばすためのせつトレを毎月種目を変えながら実施。 ・委員会活動による全校遊びや、定期的な外遊びの推進 ・児童が安全に体育の授業や休み時間の遊びに通りぬけるよう、クラスの備品の配備や、道具、体育器具の点検を実施。	・各クラスの体育授業において適切なトレーニング「せつトレ」を取り入れ、児童の体力、筋力、筋持久力の発達を図る。 ・体育委員による学年遊びを学期ごとに実施し、外遊びの機会を増やすとともに学年交流を図る。 ・学年の実態や、領域ごとに必要な動きの取得を鑑みて、備品を配備し、必要に応じて購入、また用途を周知していく。	B	・毎回の体育の授業で取り組んでいるクラスや学年では児童も多様な動きに慣れ、習慣化できていたが、低学年では内容の説明や実施時間の確保が難しかった。 ・毎回対象学年の児童はほぼ全員参加しており、体を動かすだけでなく、異学年交流の機会となった反面、企画運営に時間がかかり、学期に一回しか実施できなかった。 ・器械体操、水泳で使用できる備品を新規購入し、活用することができたが、一部の学年の使用にできなかった。	・体育委員を中心とした高学年の「せつトレ見本動画」を作成し、配布することで低学年でも動きのイメージをかけるよう取り組む。 ・全体遊びだけでなく、希望者だけが参加できるミニゲームやウォークラリーなど多様な形で外遊びに対する啓発、機会づくりに取り組む。 ・新規備品を購入した際、使用動画の撮影や研修等の機会を通して、適切な使用方法を職員全体に周知する。	・ちょこせつ開校はとても素晴らしいので、このまま続けていただきたいです。 ・体力向上には、体幹を鍛えることも大事なので、朝学習にせつトレも取り入れるなど習慣化されると良いと思います。 ・外遊びの授業があれば子ども達もそれを覚える機会が増え、体力の向上につながれるのでは、と思いました。 ・業間休みや昼休みを使用してイベント的なものをできればいいが教師以外に主導する人・サポート役が必要でその人材の確保ができれば、楽しんでできるのではないかと感じます。	
教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	①キャリア教育の視点をもった授業づくり。 ②③児童が悩みを相談しやすい環境づくりをする。	・実生活との関連、個々の役割の重要性などを教科学習の内容から関連付ける。 ・キャリアパスポートの記入、授業での活用。 ・SC.SSWとの連携、ケース会議や保護者面談への参加。 ・生活指導部会や職員会議、各研修会における児童の情報共有から問題事案の早期発見・早期解決につなげる。	・キャリアパスポートを記入する際、自身の成長を実感して書くことができる。 ・児童アンケート「学校で勉強することの意味や働くことの大切さについて教えてもらっている」への肯定的な回答が90%以上になる。 ・児童アンケート「悩みや不安がある時に、相談しようと思う先生がある」への肯定的な回答が80%以上になる。 ・SC.SSW養護教諭、児童支援での連絡会議を月に1回以上行い、相談が必要な児童を共有し、必要な支援につなぐ。 ・教職員間で児童に関する情報を共有する時間を月に1回以上設定し	B	・記入時には、1年間をふりかえると同時に、前の学年からの成長と比較して書くことができた。 ・学校で学ぶことが実生活でいかせたり、働くことの大切さを知ることやその大切さについて考えたりさせるような具体的な指導をする必要があった。 ・児童アンケート「悩みや不安がある時に、相談しようと思う先生がある」への肯定的な回答が76.7%であった。児童の学校カウンセリングの利用がしやすいように時間設定などを改善したことで児童の利用率は大幅に増えている。 ・4者での連絡会議を定期的に行うことで、児童だけでなく困り感のある保護者と早期に繋がり、家庭と協力して児童の支援に結びついたケースもあった。	・学校で学ぶことが、将来のキャリア形成においてどのようにつながるのかを学習に取り入れていく。また、学習段階に応じて目標や将来について考える活動を取り入れていく。 ・学校カウンセリングの児童の利用は増えているが利用児童は限定的なので今後も利用可能であることを周知していく。担任以外の教員が関わる機会を増やすなどの教育課程の見直しも検討したい。		

	<p><b>特別支援教育の推進</b></p> <p>①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実</p>	<p>①特別支援教育に対する全職員の共通理解を深め学校全体で取り組む体制を構築する。</p> <p>②特別な支援を要する児童の教育的ニーズを把握し、必要に応じた支援体制を整える。</p>	<p>・特別支援教育に関する知識を深めるための研修会を実施。</p> <p>・個別の指導計画の作成及び活用。</p>	<p>・職員アンケート「特別支援教育推進委員会は支援を要する児童の共通理解を図り、適切な校内体制を組んでいる。」への肯定的な回答が95%以上になる。</p>	<p><b>A</b></p> <p>・職員研修や毎月の会議で情報交換を行うことで、特別な支援を要する児童の実態や対応について全職員で共通理解を深めることができ、肯定的な回答が100%に至る結果につながった。・個別の指導計画を立てることで、児童1人1人のニーズを把握し、見直しを持って支援を行うことができた。</p>	<p>・引き続き、職員研修や情報交換を行うことによって、全職員が共通理解をもって特別な支援を必要とする児童に関わっていく。</p>	
	<p><b>教職員の資質向上</b></p> <p>①研修等の充実</p>	<p>①個々の教師の資質を向上させる。</p>	<p>・学校の課題に応じた校内研修の実施。</p> <p>・自由参加できる研修を随時実施し、授業力やその他学級経営・生活指導に関わるスキルを高める。</p>	<p>・一人1回は道徳の授業公開をする。</p> <p>・各学年、各学団で日々の授業を研鑽する。</p> <p>・職員のニーズの多い内容で、自主研修(摂カフェ)を年に3回以上実施する。</p>	<p><b>B</b></p> <p>・一人1授業の公開はできたが、参観にくる教師が少なかった。</p> <p>・授業公開後は、個別に指導を仰ぐことがほとんどなので、多くの教員の学びにはなっていない。</p> <p>・年3回の自主研修は行えた。</p> <p>・自主研修の敷居が高く、定期的な研修が開けなかった。</p>	<p>・授業公開では、より多くの先生は参観でき、事後研ではそれぞれが学んだことを共有し、より多くの学びとなるようなシステムに改善する。</p> <p>・今、知りたいことは何か、課題に思っていることは何かを細かく把握して実施する。</p> <p>・授業力向上だけでなく、行事や生活指導などの分野で、先生の多様な考えを聞ける会を設けていく。</p>	
<p><b>教育環境の整備・充実</b></p>	<p><b>学校を支える組織体制の整備</b></p> <p>①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築</p>	<p>①コミュニティスクールにおける地域と学校の連携、協働。</p>	<p>・学校運営協議会を実施、運営し学校における課題を地域と共有することで地域に根ざした学校をつくる。</p>		<p><b>A</b></p> <p>・授業で地域の方に協力していただいたりして、活動を広げることが出来た。</p>	<p>・HPの日誌、ほぼ毎日更新して下さっているの、子ども達がどんな事をしているのか様子を見て、保護者としてもありがたいです。</p> <p>・運営委員会だけでなく自治協議会へのサポートの依頼を出すことができれば、地域の方のサポートが広がるのではないかと思います。学びポケットから学校のHPに飛べるようにしてほしい。</p>	
	<p><b>安全・安心な教育環境の充実</b></p> <p>①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進</p>	<p>①②③地域や学校施設の実態に応じた安全教育を推進する。</p> <p>④学校施設を安心して使えるための整備点検。</p> <p>⑤教職員の勤務実態を把握した上での働き方改革を推進する。</p>	<p>・火災、防犯、風水害それぞれに対応した訓練を実施。</p> <p>・交通ルールや遊具、備品等の安全な使い方を指導する。</p> <p>・月一回各教室やその他設備の安全点検を実施する。</p> <p>・自転車教室など発達段階に応じた交通安全教室の実施。</p> <p>・業務改善委員で現在の業務を見直し、ビルドアンドスクラップに取り組む。</p>	<p>・保護者アンケート「お子さんは自分の身を守り安全に生活するための方法を理解している。」の肯定的回答が90%以上になる。</p> <p>・保護者アンケート「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境を整えている。」の肯定的回答が90%以上になる。</p>	<p><b>A</b></p> <p>・保護者アンケート「子どもは自分の身を守り、安全に生活するための方法理解している」は90.2%であった。</p> <p>・火災、防犯、風水害それぞれに対応した訓練や事前事後指導をするkとによって児童も基本的な知識の理解と行動ができています。しかし、今後は、いざという時の適切な行動力を身につけていく必要があると考えられる。</p> <p>・保護者アンケート「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境を整えている。」の肯定的回答が98.4%であった。</p> <p>教職員を対象としたアンケートを実施し、今まで実施してきた業務改善をふりかえり見直ししたり、業務改善すべきことを話し合ったりして、業務改善を行うことができた。</p>	<p>・訓練において、いつも同じ時間帯や方法で行うのではなく、どんな時に災害が起こっても対応できるように、次年度は実施時刻を告知しない訓練を実施する計画を立てたい。</p> <p>・月一回各教室やその他設備の安全点検を実施することで、基本的な点検はできているが、より迅速に修理や改善ができるようにしていきたい。</p> <p>・今年度は、年度の途中で1回しかアンケートを取らなかったため、今後は継続的にアンケートを取り、業務改善につなげたい。3学期から実施したことについては、来年度も実施していきたい。</p>	

**学校関係者評価総括**

・全体的には手厚いサポートがあり、相談した時にも対応が早く助かっています。先生たちが連携して対応してくれているように思います。ただ、先生たちが忙しく、大変そうだなと思います。余裕がある先生が増えるといいなと思います。

**次年度に向けた重点的な改善点**

- ・「確かな学力」を育成するために個人の習熟度学習進度に合わせた個人学習を推進していくこと
- ・地域と連携した体力向上プラン、教職員の資質向上につながる研修の充実など子どもたちが安心して学べる場を確保すること
- ・それが不登校減少につながると思う。新しい時代に対応した教育の推進につなげていく

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った